



2014-2015年度 R.I. テーマ



「山芍薬」 写真提供：長田 達明 会員



- ◆ 会長 牧野 健吉 ◆ 幹事 佐々木祐司
- ◆ 発行 会報委員会 11月担当 鈴木

2RC合同夜間例会

滑川RC 1801回
魚津西RC 2288回

- ◆ 点 鐘
- ◆ ローターソング 「それでこそロータリー」
- ◆ ゲスト並びにビジターの紹介
- ◆ 会長挨拶 魚津西RC 牧野会長
- ◆ 出席報告 (魚津西・滑川RC)
- ◆ ニコニコボックス報告 (魚津西・滑川RC)
- ◆ 閉会点鐘

引き続き懇親会へ

- ★ 挨拶 …… 滑川RC高緑会長代理
- ★ 乾杯 …… 滑川RC水橋様
- ★ 手に手つないで



創立1968年 (昭和43年) 5月27日 (第2610地区内創立順位19)

例 会：火曜日 12:30 於. にかわ信用金庫本店5 F TEL (0765) 24-1155 第3例会 18:30 於. 喜楽 TEL (0765) 22-0715

第2289回例会 11月25日(火)

- ◆点 鐘 牧野 健吉 会長
- ◆司 会 佐々木祐司 幹事
- ◆ロータリーソング 「我等の生業」
- ◆ゲスト並びにビジターの紹介 親睦委員会
ゲスト卓話 富山県立大学 工学部環境工学科
教授 高橋 剛一郎 様

🍷 ハッピーバースデー 🍷

- ・11月28日 扇 谷 夫人
- ・11月30日 関 夫人

◆会長挨拶

みなさんどんな一週間をお過ごしでしたでしょうか？
22日土曜日の地震は気が付かれましたか？私も二階にあがりベッドに入った途端、横揺れを感じた瞬間に携帯電話の緊急ブザーが鳴り響き、大きいのかと思い『早く止まってくれ!!』と願いました。

揺れは10秒ぐらいと短く安心致しましたが、白馬村の方では大きな被害が出ました。負傷者は44人ということですが、死者が一人も出なかったことに『不幸中の幸い』ではなかったでしょうか。

また、暖房器具も使用していたでしょうが火災も起こらなかった。雪国ということで柱等も太いものが使われていたからでしょうか。

でも一番感心したのは地域住民の災害に対するマップを作り、日々助け合うことを心がけ訓練を重ねた結果だと思います。

今月10日に亡くなられました映画俳優の高倉健さんですが、大きなショックを受けました。任侠物から『八甲田山』『鉄道員』『あなたへ』等200作を超える作品を世に出し、日本人のみではなく世界中の映画ファンから愛されました。

日本人の生き方、厳しさ、強さ、そして温かさを秘めた男の姿を示していただいたと思います。

最後に衆議院が解散し12月14日が投票日と言うことですが、皆様はいかがお考えでしょうか？子供たちにはゲームのやりすぎだとか、スマホでも歩きながらメール・ゲームをやっていて大変危険だと言っていますが、政治家さんもゲーム感覚でしかないのでは？

◆出席報告 (鈴木委員)

- ・出席率 会員30名中(出席免除者2名) 24名 85.71%
- ・欠席者 畠山君、三浦君、宮崎君、横谷君の諸君
- ・前々回(2287回)の修正
メーク・アップ 関口君・吉田君
75.0%→82.14%

◆幹事報告

- 国際ロータリー第2610地区より
- ・2015-2016年度地区委員長推薦のお願い

☆12月度例会案内

	活 動 内 容	例会場
12/2(火)	卓話担当：吉田君 理事会	信金5階
12/9(火)	クリスマス家族会	ホテル グランミラージュ
12/16(火)	クラブ年次総会：会長・幹事 Rの友・情報紹介	信金5階
12/23(火)	休 会	
12/30(火)	休 会	

★12月のSAA補助

森本君・横谷君の諸君です。よろしくお願ひします。

◆ニコニコボックス

- ・扇谷一郎君：先週の滑川RCとの合同例会の遅刻のおわび。腰部脊柱管狭窄症による諸症状もここにきてようやく改善。今年24回目のゴルフで初めて優勝しました。
- ・久津谷俊行君：一人娘がおととい結婚しました。祝福しなければならぬのですが、さみしい気持ちでいます。扇谷先生夫妻のように、これからダンナのたづなを引きしめて長持ちしてほしいと思っています。
- ・原 英高君：会葬の御礼

今週までの合計額 294,000円

◆卓 話 「～豊かな川を身近にサケや

サクラマスを見たい・食べたい!～」



富山県立大学
工学部環境工学科 教授
高橋 剛一郎 様

治山、治水、砂防などは土砂災害や洪水災害の防止を含めわれわれの生活基盤の保全を担う重要な役割を担っているが、一方でダムやコンクリート護岸などにより河川が環境が悪くなり、かつては川で普通に見られたサケやサクラマスが減ってしまっている。この卓話では、サケやサクラマスがまた普通に見られるような、豊かな川を身近に取り戻すことが様々な面で良い循環をもたらすということを述べた。

まず、サケは身近に見られる魚であることを述べた。サケは秋に産卵のために海から川に入ってくるが、サケ

の産卵場は川底に湧水が湧いているところが好まれる。湧水は扇状地の末端に集中するので、早月川や片貝川では河口近くが産卵適地となる。鴨川も湧水が湧いているので、市街地でも産卵が見られるはずである。

サケは水産上重要な魚種であり、人工増殖事業が行われている。河川下流部にヤナをかけ、そこで親魚を捕獲し、それより上流には親魚は遡上できないようにしている。従来資源増殖のやり方では上流にサケを遡上させ、自然産卵をさせることは不適切とされるが、全てを人工増殖でまかなうのではなく、一部を自然産卵に任せることが自然であるし、さまざまな利点があると考えられる。もちろんデメリットも考えられるが（表1）、それらは十分克服可能であると考えられる。

表1 サケの自然産卵を行なうことに関する得失

◎よい効果（図1参照）

- ・長期的、本質的な面からサケの資源保全に資すること。
- ・サケの自然産卵を可能とする環境を保持することによる河川環境保全の効果が期待できること。
- ・サケの遡上する姿や産卵に関連する姿を身近に見ることができることによる、「自然へのふれあい」や自然教育効果が期待できること。
- ・サケの遡上を身近に見ることにより市民の河川への関心が高まり、河川に関する意識が高まること（河川管理や治水などに対する意識の向上）。
- ・基本的に施設を作ったり人員を手当することが不要で、軽費が極少であること。
- ・全県を挙げてこの提案を取り組むことにより、富山県自体をアピールすることにつながる。

◎悪い影響

- ・人工増殖を行っている組織、人たちのやり方を変えてしまう。システム上（採卵数、放流数などが予算のベースになるなど）の問題があるほか、意識面での抵抗があること。
- ・自然産卵が必ずしも効率的であるとは言えない面があること。
- ・サケが川にたくさんいることにより、密漁が懸念されること。

サクラマスは、例えば明治時代の漁獲統計では神通川の年間漁獲量は百数十tであったものが、近年は1t未満に落ち込んでいるように、今や絶滅に近い状況にある。このような危機的な状況を少しでも改善する一歩として、サケの産卵を身近に見られるような河川を取り戻し、われわれ市民がそれを見守っていくようにすることが重要であると考えられる。



図1. サケが自然繁殖する川を身近に持つことによって得られる利点等。

富山労災病院
魚津西ロータリー文庫の書籍贈呈式

平成26年12月1日 社会奉仕委員会事業



